

刊夕日五廿月四



定価 一部金... 月刊 五部金... 日曜祭日の翌日休刊... 発行所 常磐宮日新聞社... 電話 六三〇〇

浄土觀照

眞繼 雲山

觀世音とは、世音を觀じて、衆生の欲求するまゝを満たして下さるといふ救済者といふのであつて、その救済の方便としては、必要に應じて三十三身に示現し給ふといふのであるから、慈悲はなれて朝晩の世話一切を焼いてくれる女房のその救済の事實だけは、それが部分的に過ぎないにせよ亭主に取つて少くとも觀音の行事にひとしい事となる従つて女房の一部分に觀音の本質とひとしいものを見出だすことが出来る。ひとしいならばそれを觀音といふて不可ないであらう。娘も女中も婆さんも、苟くも我れを助くる一切の行事の持主は、部分的に皆な觀音様である。しかしそれを觀音と認識し得ない限り、相手は觀音であり得ない。

換言すれば、相手の實在の問題ではなくして、こなたの心の問題である。認識の事實が我が心に現れたときに、それを神といひ佛といひ乃至、觀音と拜するのである。この故に犬や猫自身に取つて佛はあり得ない、何となれば彼れ等自身として認識の事實が無いからである。狗子に佛性ありと見るは、こなたの觀照に外ならぬ。無信の輩に神佛が見えないといふは、見えないのではなくして、初めからその男子は無ないのである。

一切衆生悉有佛性とは、さう輕々しい言葉ではない佛心を以て一切世間を觀照すれば、それが浄土に見えるのではなくして、事實それが正銘の浄土に相違ないのである。春の花、夏の緑の月、冬の雪、何れかそれが浄土の姿でないものがあらうか。心に静寂にして計度なくば、隨所に極樂は散見し得やう。これを逆にして泥棒に取つては、この世は地獄である。敢へて甲村は極樂、乙村は地獄とそんな區別があるのではな、一つの心が、それを極樂と觀照し又は地獄と怖れおのゝくのである。同一の佛像でも、藝術家から見れば、藝術品に見えるし、信心家より見れば佛様に見える。無信の男から見れば、枯木の人形くらゐにしか見えぬ。犬猪に取つては人形とさへも見えないであらうラヂオを聞くためにはアンテナが必要であり、觀音に抱れるためには、觀音を發見する佛心が必要であるやうに、浄土を觀照する佛心が無くては叶はず。花を見るのが花見の歡樂であるやうに、浄土を觀照することが極樂に住む所以である

を見出だす心眼がめしいてゐるのである。花見とて、花を吞み食ふ譯ではあるまい。一切の對境は、觀照すること以上に體験の筋はない。極樂の住人たらんがためには、心において觀照し、心を極樂ならしむることを要する。その術、如何といふに自我の煩張りてゐては、極樂は宿らず。己れといふ自我から離れた無我の境(佛心)に立つたときにおいてのみ永生至樂の浄土は限りなく展開する。

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器 關内藥局

電話四〇番

花環 花籠 蓮華

新らしく安い

造花

町川新町平 橋本屋

電話一六三番

鹽豚販賣開始

三二二三屋 平田町

旭硝子株式會社製品 板ガラス

製造 硝子食器 硝子壺 硝子壺 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)

●毎度御ひの儀です 今回店內を改築いたしました 例年の通り 自四月十六日 至同月廿六日

マダロデー

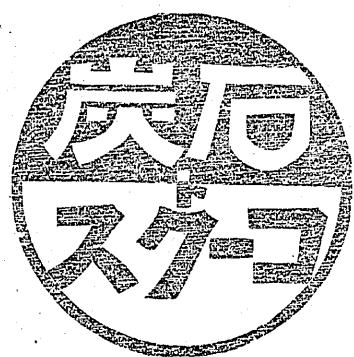
マダロなべ 十五錢
山盛さしみ御一人前 十五錢
山かけ 同 十五錢
すし 十五錢 鐵火卷 十五錢

●ドーゾお花見と博覽會見物の おかへりにお立寄り下さい 改築の食堂がおまらして居ります

御料理仕出し 平二丁目平警察署通り 鮮魚 魚清食堂 折詰御壽司 電話六三三 勿來製氷一手販賣 魚清氷卸部 電話四六七

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番



よい品を安く賣る店 電話三七番

阿部石炭商店

●小兒下痢一切小兒腸胃散 ●堀 藥局 平町二丁目 電話三三六番

月曜言論

徳は時より強し

『時』は總べてを煙消雲散せしむ。善も、惡も、美も、醜も、是ら悉くが時間の経過に依つて『過去』の墓場に葬り去られる、誠に『時』は森羅萬象に對する無言の清濁者たると共に、恐るべき『忘却』の毒素をよくだ魔物である。

吾人が今、好問方面との交通に便益を感じつつある菅の澤道路が、半世紀の以前に於いて民間特志家の苦心開鑿に成れる貢獻事業であるの一事は、今回の記念碑建設に依つて初めて知つた事實である、斯かる公共的なる美事篤行も、時の経過は、新時代の者の眼を覆ふて知らしめやうとしない巖谷先生がその選文の中に『事半世紀の舊事に屬し當時を知る者漸く稀に隨つて其偉功の埋れんとするを憾み……』と嘆かしむる又むべなる哉である。

今回の建碑は、此の埋れんとする功蹟を世に傳へんとして目論まれたる美舉であると同時に、燦爛たる功績は『時』の魔物と雖も是れを吞下し得ず、其の徳の稱へらるゝ日の必らず來る事實を明らかにしめた意味に於て愉快さを感じるものである。

五、六兩年度の優良納税組合

あす平町で表彰式

- 既報昭和五、六兩年度に於ける平町優良各納税組合の表彰式は明廿六日午前十時より町會議室にて舉行されるが當日優良組合として平町及知事並に仙臺稅務監督局より表彰されるものは左記の如くである
(平町表彰の部)南町一の組 仲田町 田町 新川上組 研町第二 古鍛冶町 役場吏員 鎌田東一組 新川町 研古 長坂三丁目中央 紺屋町五十二 四丁目下 鎌田二丁目庚戌 有隣組 材木町中央 笹塚小路乙五丁目下 丸井 鎌田一十六區五組 紺屋町南町四組 鎌田東部 長橋第一 北目 仲間町三丁目大谷長屋 平局員組中學職員 平信用 三丁目第三 二丁目寶成 南町三 新川大正 南町一丁目川岸 二丁目三杉澤一 紺屋町六 平水道職員 平第二職員 紺屋町三 田町西部 立町第一 丹野組 高等女學校職員 月見町 第一校職員 三丁目南 商業學校職員 甲寅組 南町第六 古三組 久保町 五丁目中 新川松崎 材木町東部 磐炭職員 裁判所職員 稅務署職員 平機關庫 二丁目南裏 長橋東部 昭和 長橋二丁目十四 日立變電職員 中町 刑務所職員 平檢事 平署 二丁目二大工町第一 南町第二七丁目 戊辰 紺屋町第一 五丁目上 新正會 立町第二 笹塚小路 紺屋町第四 笹塚小路甲 庚申 四丁目 一丁目四番 胡摩澤第一 第三校

縣下二名の軍事功勞

昨日の記念式に山崎氏表彰さる

昨日の勅諭御下賜五十周年の記念式に當り軍事功勞者として表彰された縣下二名中の一名平町古鍛冶町後備陸軍砲兵少尉山崎清三氏は平町屈指のヤマフル醬油醸造元の若主人で寸暇なき多忙の身を石城郡在郷軍人分會長として盡瘁する外平商工會長として重きを爲し地方稀れに見る
徳望家として尊敬されつゝある事は人の知る處であるが昨日縣廳に於て此の光榮ある表彰の傳達を受けて歸平し家門の譽れと感激して居る、表彰狀左記の如くである
表彰狀
正八位山崎清三

店頭窓飾

入賞

審査決定

至誠一貫多年力を軍事に効し貢獻する所尠からず仍て軍人勅諭下賜五十年記念祝典に際し賞牌を授與し茲に之を表彰す
昭和七年四月廿四日
陸軍大臣荒木貞大
いはし新報社主催第二回店頭並びにウキンドウ裝飾競技大會審査會は去る廿三日午後七時から常盤銀行樓上に開催されたが當夜の出席審査員の顔振れは酒井碧女教諭其他の諸氏で十六日より廿三日まで嚴重なる審査を行ひ先づ鈴木邦三郎氏推されて審査長となり各自意見を交換採点法に協議一決し公平に採点の結果左記の如く決定茲に榮譽ある町長杯は四丁目ツルヤ洋品店及び三丁目なかや洋服店が勝ち得た
ウキンドウ裝飾競技
一等ツルヤ洋品店、二等山崎合名會社、三等大谷時計店、佳作マルトモ書店、大塚靴店、松月堂マールカ書房、和久井しつ器店、モリタヤ洋品店、店頭裝飾競技
一等なかや洋服店、二等大谷時計店、三等松月堂菓子店、佳作ウキンドウ子供洋服店、遠藤バンド、丸ほん商店
因に賞品授與式は来る廿九

警女生修學

警女生修學

磐城高等女學校四年生一同は既報の如く各組主任引率の下に明二十六日午後午前七時に四百四十名が關西方面へ修學旅行に出發するが修學に便ならしむ爲め各地の名所、舊跡の説明を加へた『旅行のしおり』を印刷し名々生徒に配付した
中堅農民
三十日入會式
石城郡農會本年度の中堅農民講習會入會式は三十日午前九時より團體事務所樓上に行はれるが同講習會は年々有望視されて來たので昨年度の入會者は九十餘名であつたが本年は現在百餘名を突破して居るので入會式當日迄には百五十名にも及ぶであらうと
石城第三區
校長會
廿日平第二で
石城郡第三區小學校校長會は来る三十日午前十時より平第二小學校講堂に於て開催されるが協議事項は本年度豫算の編成並は本年度事業の計畫及近く開かれる郡下校長協議會に提出する問題選定等であると

平校教務會

教育方針打合

平町各小學校教務會は来る二十九日午前十時より平第二小學校に於て開かれるが出席者は左の諸氏で本年度の教育方針及本年度保護者の事業計畫に付いて協議すると
△第一小學校會我直治、坂内伊貞△第二小學校津田達造、金澤邦男△第三小學校赤津千里、新家芳美
平町入事
△四丁目二九當時石城郡好間村字堂田松原美津太氏三男春房
△白銀町一鈴木角太郎氏二女立子
△九品寺前當時東京市小石川區茗荷谷町七遠藤宗光氏長男宗英
△結婚
△胡摩澤大方慶明氏(二六石城郡大野村字中平金成ヨシ子二一)

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雜誌が

自由の讀める

川崎文庫

(申込次第規則書進呈)

小雨けふるさのう 平青年各分團野球試合

決勝戦は廿七日に舉行

平青年團主催各分團對抗軟式野球大會は既報の如く昨日午前八時多田井團長の始球式に依り平商業學校及第一小學校の兩球場に於て舉行されたが選手は白鉢巻、赤鉢巻、白足袋、黒足袋、草履、半天着等々一般觀覽者の人氣を集めて小雨降る中にスポーツマンシップを遺憾なく發揮し力戦したが戦績は左の如くで準決勝及決勝戦は来る二十七日午前九時より舉行するが組合せは左の如くである

- △第一回戦
 - (2) 田町 (10) 五丁目
 - (11) 白銀町 (2) 七丁目
 - (8) 7 材木町 (A) 4 紺屋町
 - (8) 新川町 (3) 長橋町
 - 9. 胡摩澤
 - 1. 二丁目
- △第二回戦
 - (7) 白銀町 (13) 五丁目
 - (16) 南町 (A) 13 四丁目
 - (10) 新川町中 (胡摩澤)
 - (9) 紺屋町止 (一) 丁目
- △準決勝
 - A (南町 B (新川町
 - (五) 丁目 (中止) 勝者
- △決勝戦
 - (A) の勝者
 - (B) の勝者

石城警親會

けふ二回總會
既報石城警親會第三回の總

刺身庖丁を揮つて 父の頭を切る

紺屋町の亂暴息子

平町紺屋町館屋吉田善福(三)は昨夜九時頃自宅にて實父兼次(五)と些細の事より口論となり善福は傍にあつた刺身庖丁にて實父の頭部を強打し全治三週間を要する重傷を負はしたので平署に検察されたが同人は平常にても神經に異常が有つて非常に粗暴な男であると

郡下神社の 氏子總代會

出席五百餘名
既報郡下各神社の氏子總代會は昨廿四日午前十時より平第三小學校に於いて開催され郡下の總代五百餘名が左記事項の協議をなした
△氏子總代職務に關する件
△祭儀執行に關する件

小名濱藝妓業者 組合長を除名

紛擾もたも再燃す

石城郡小名濱藝妓屋組合對同町料理店組合側の紛擾問題は昨年九月藝妓屋組合では同町吉田屋旅館に藝妓を入れぬことを決議し落着いたところこの程吉田屋旅館に開かれた自動車協會石城支部總會の宴席に偶々藝妓屋組合長壽満屋方の藝妓が

第三校遠足

明日各學年別

△神職待遇の件
△神宮大麻及曆の頒布普及の件
平第三小學校では明日全校生の春期遠足運動會を左の如く行ふが雨天の際は順延すると
△尋常科第一學年白土八幡宮
△第二學年夏井村專稱寺
△第三學年四學年男内郷村白水阿彌陀堂
△第三學年四學年女新舞子
△第五學年第六學年男赤井村
△關井井嶽
△第五學年第六學年女豊登臺

結核豫防宣傳

各小學校では来る二十七日の結核豫防デーに際し當日は靖國神社の臨時大祭に付休學するので翌二十八日午前八時より一時半通俗講演をなし各々宣傳ビラを配布するが講師は各校長である

明日の天気
廿六日
今晩は南東の風、明日は北西の風、次第に天候快復

今晚の部

後六、〇〇 (子供の時間)
歌とピアノ 阿部愛子外
後七、三〇 産業ニュース
後八、〇〇 「靖國神社臨時大祭招魂式狀況」祭主別格官幣社靖國神社宮司加茂百樹
後九、三〇 (奉天より)
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組預告

明日の部

前九、一〇 料理献立「刺身の芥子酢みそ和へ」東北女子職業學校發表
前一〇、三〇 家庭講座「滿洲の正月」(第一講) 刈田仁
後一〇、〇五 映畫物語「勝敗」松山玉葉
後二、〇〇 家庭大學講座「學女と教育」文學博士椎

神寺を背負廻る ルンペンの新戦術

極度の不景氣のため働くに食なき所謂高等ルンペンは尖端的生活新戦術として種々な社會遊泳術に頭を痛めてゐるが最近平町に於いても此等のルンペンが神社や寺院造成の奉願帳を持ち廻り信者を訪問し言葉巧に金錢其他を強要するもの多く警察當局も取締を厳にして居るが各家庭に於ても十分に注意して欲しいと

人妻が墮落

平署へ捜査願
茨城磐多賀郡松岡村大字上手園字關梶山善三の妻ハルヨ(三七)は昨年春頃より高野山弘法大師行者と稱する同郡磯原町西明寺の細谷又治(五)と情を通じて居た事を最近夫の耳に知れて了つたので去る九日道ならぬ兩名は行衛を晦して了つたので夫善三は各方面に手配中であつたが石城郡の炭礦方面に入つたらしく本日平署に

在監者

減少した
平支所の昨今の在監者は七名で昨年の十一名に比較すると幾分減じて居るが尙犯罪別は左記の

△殺人一名 △放火一名 △勢役一名 詐僞二名 △窃盜二名
今弘法と

取押方を願出た
山間聯合青年 永戸箕輪、澤渡、三坂の聯合青年團春季總會は三十日午前九時より澤渡小學校で開き辯論大會並に陸上大競技大會を行ふと

平職業紹介所報告
求人者の部
△女中 五十前後 尋卒
月五圓位(平町某)
△出前持 二十才 尋卒
給料面談(平町某)
△菓子見習工 十七才 尋卒
月五圓位(平町某菓子店)
△小店員 十六才 尋卒
仕着小使(東京下谷區某)
求職の部
△自動車助手 十六才 尋五修 給料面談(内郷村某)
△難夫 二十五才 高卒 給料面談(好間村某)
△倉働 三十二才 高卒 給料面談(伊達郡某)
△農夫 五十一才 無學 給料面談(新潟縣某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

【第卅五席】

神影流の達人秋山要手

浪人櫻井五郎

逸見多四郎は秋山要介、千葉周作を泊め置き種々馳走をいたしたが千葉は諸大名に出入をいたして居つて多忙の身とて永く此處に居る事は出来ない、江戸に出府の節はお立ち寄り下さいと別れを告げて小川を出立し、江戸神田お王ヶ池の道場へ戻つた、秋山要介は急がぬ旅ゆえ當分逸見方に滞在して居つたが折々寄居の虎五郎といふ俠客の許に行く、此虎五郎は逸見の弟子で、茲に越後高田の浪人で櫻井五郎といふ者が居る、間庭念流の奥儀を究めたが誠に優美で武藝者らしくない、それでありながら大層力がある、要介は荒い氣性で櫻井とは雪と墨ほど性質を異にしてゐるが二人共その武藝に惚れて仲睦まじくして居ると八月の十五日寄居八幡宮の祭典で町内は飾物も出来揃ひ浴衣で若い者は御輿を昇いで氏子中を廻る、又境内には相撲がある、これは素人ばかりで催し、飛び入り勝手次第小屋の中は人で埋まるやう、此場に虎五郎は櫻井五郎に輕井澤の音五郎、それ

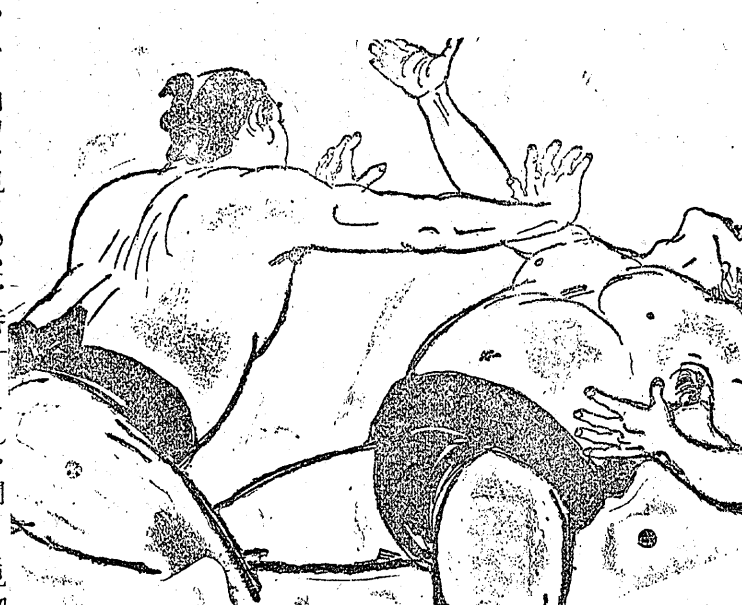
に丹波芳などといふ主立つた乾分を初め若い者を十四五人伴れて西の座敷に上り見物をしてゐると正面座敷に居たは小川庄兵衛といふこれも俠客、越後浪人の村上周一郎及乾分の鐵砲勝、其外若い者十二三人と共に

司で袴を穿き行儀儀の肩衣をつけ、一味清風と書いた軍配打扇を把り士俵の中央に立上り

作『東西』角力番敷取進みますれば、これより五番勝負を御覽に入れます此方桐林』と色の黒い丈の高い男を指して云つた

と角力の名を呼び上げ、反物三反を軍配の上に載せて

作『東西』桐林へ御最負とあつて甚左衛門殿より所澤木綿三反下し置かるゝ又御最負とあつて漆畑に大根十把下し置かるゝ、



やはり角力を見てゐた、番敷も進んで来て呼び出しにつれて東の溜からヌツと土俵に現れたは色の黒い見上げる様な大きな男、西から出る男は小作りではあれどガツチリとした頑丈な體格勝呂の作十郎といふ者が行

それを聞くと見物が
○『桐林確かりやれ……』
△『漆畑負るナ！熊谷の女ツ子かついてるぞヤ！土俵の傍へ米を積んだナ』
△『五番とも勝續ければ白米が取れるぞ』
○『それは大した事だ負る

なよ——白米が五俵とれるぞ——』
と聲をかける、桐林に漆畑ビタリと仕切り、互に見合つたがそこは素人の事では合はずとも立つヨイシヨイと立ち上がりズブリと四ツに渡つて漆畑は兩の腕にあるだけの力を籠めてグーと押す、桐林はズル／＼と後へ下る
○『漆畑……もう一ツ押せや……くぬぎ林をひつくりかへして薪にしてしまへ』
などといふと漆畑は八幡勝は茲とウーンと力を出してとう／＼くぬぎ林を押し切つた、ワーツと見物は聲を揚げる、行司に團扇を取直して
作『勝相撲漆畑』
と呼び上げた、スルと正面棧敷からバラ／＼と降りて来た一人
男『オイお行司俺は飛入りで漆畑と一てう行かう』
作『名前はなんと言ひなさる』
男『何でも付けて置け』
作『それでは飛入として置きませう』
男『支度をする締込めを貸してくれ』
是から締子の締込めをして衣類を脱ぎ土俵へ上つた行司は團扇を把つて
作『東西』飛入りとうるし畑との勝負を御覽に入れます』
見物はこれ聞いて
○『飛入り確かりやれ』
△『うるし畑負けるナツ投つてしまへ……』
と聲援する二人は漸く仕切

つて暫く見合つてゐたがヤツと立上つた此時彼の飛入りはドーンと突き出した鐵砲股を突かれてうるし畑は體が飛び土俵の下へゴロ／＼と落ちた行司は飛入りと呼びながら軍配を上げる
○『大した力だなア、たつた一つの鐵砲でうるし畑は飛んでしまつた恐ろしい力だ』
とびつくりしてゐる

大塚の 學生靴!!!

耐久新製品

編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……

大塚支製靴部
電話七七番

時計眼鏡

ヤキワキ

九九三三電一平

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平南町(電話一七〇番)

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 松永憲一
整形外科

美味 滋養

松本の 洋生菜子

ヤトモツマ

香四一二電目丁四平

専門

産婦人科
花柳病科

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

大和田醫院

平南町(電話一七〇番)